

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13453

研究課題名（和文）The Ainu indigenous people of Japan, facing the challenges of identity reconstruction

研究課題名（英文）The Ainu indigenous people of Japan, facing the challenges of identity reconstruction

研究代表者

CLERCQ LUCIEN (CLERCQ, Lucien)

北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・特任教授

研究者番号：30749578

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：3年間の調査で、伝統的な儀礼に基づく社会文化的行事の再構築に向けたアイヌの取り組みを明らかにした。同時に、先住民自身による宣言書を1934年に上梓した先駆的なアイヌの思想家貴塩喜蔵の重要性を示した。アイヌの要求と戦略は、根強い人種差別的な状況の中で「アイヌプリ」という重要な概念を維持するためのコミュニティの再構築に向けられている。伝統的な行事の実践は、並行的に存在する非時間的な空間とのつながりと、北海道の環境と密接に結びついたアニミズム的な精神性を回復する。北海道にはアイヌ語由来の地名や、祖先やカムイを祀る祭壇の痕跡が広く認められ、アイヌの儀式は、その過去と現在の結びつきを顕在化するのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会正義に向けたアイヌの要求は、日本社会におけるマイノリティたちの要求とも通底し、社会を構成する複数のアイデンティティを、その細かな差異と特異性と共に認めることを求めている。アイヌは、アイデンティティが完全に固定されたり決定的に閉じられたりすることはなく、伝統の更新と新たな混血によって常に変化することを教えている。また、ナショナリズムとは異質な生存戦略によって練磨されたアイヌのアニミズム的なメッセージは、自然や人の支配ではなく、穏やかでバランスのとれた関係を環境との間に保つことの重要性を教えている。多様性の尊重と地球の保全という将来的課題を考察する上でも本研究の意義は小さくないと考える。

研究成果の概要（英文）：During these three years of research, we have uncovered the efforts to reconstruct socio-cultural events based on ancient Ainu rituals. We have also shown the importance of Nukishio Kizo, a writer who in 1934 wrote the first indigenous manifesto written by an indigenous person, calling for the survival and recognition of his people. These Ainu claims and strategies show how the Ainu people have managed to reconstitute a community concerned with preserving the fundamental notion of “Ainupuri” in a context of strong racial discrimination. It is a parallel space with which they return through the practice of all traditional activities, and an animist spirituality intimately linked to the Hokkaido environment. It is indeed marked by an indigenous arrangement of vernacular places, symbolized by the presence of nusa altars revering the ancestors and the kamuy. This continuity is also used during events honoring the ainupuri to strengthen community ties by bringing the Ainu together.

研究分野：Anthropology

キーワード：Ainu Identity Multiculturalism Miscegenation Hafu Hybridization Reconstruction Nukishio Kizo

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

日本という国体に編入されたことで生じた社会文化的変容に対してアイヌ民族が練磨してきた戦略について分析することが本研究の目的である。この同化政策によって、アイヌ民族は長期に渡る異文化適応を強いられる一方で、未だに立場の不安定な民族・文化的なマイノリティの地位に置かれてきた。しかし、15年に渡るフィールドワークの結果、アイヌは社会的変化に適応するため、実用的な発想と驚くべき適応能力を用いてきたことが明らかになった。

本研究は、民族学的なフィールド調査と歴史的文献の分析を織り交ぜながら、社会文化的事件に携わったアイヌの証言や、アイヌ文化の保護に向けられた文芸作品を分析することで、長期にわたる文化変容に抵抗するための戦略について包括的な理解を得ることを目指した。

日本の少数民族の闘争に関するこの問題は、日本社会と学术界にとって非常に重要なものでもある。なぜならこの問題は、社会正義や公平の実現を目指して世界中の少数民族が行う社会文化的な権利の要求や権利獲得のための闘いにも関連するとともに、しばしば民族的・文化的に均質とみなされる日本という観念に対し、直接的な疑問を突き付けるものだからである。さらに、北半球の北部に暮らす少数民族である日本のアイヌが、民族的・混血的・日本的であるアイデンティティ創出のモデルとして重要な役割を果たしうるということを強調する必要がある。

## 2. 研究の目的

目標達成のため、本研究は次の三つの段階を設定した。

最初の年は、アイデンティティの再構築と権利要求という目的のためにアイヌの共同体が練り上げた戦略について精査することより開始した。例えば、サケの遡上を祝う大規模な社会文化的儀礼「アシリチュプノミ」のようなアイヌの独創性を色濃く反映した儀礼の分析を通じて、アイヌが公共空間をどのように占有したかを明らかにしようとした。また、和人とアイヌの間の混血の重要性に鑑みて、なぜ日本社会において「ハーフ」という用語が用いられるのか、その用語はどのような問題を提起しているのかについての考察を行った。その結果、「ハーフ」という用語は、日本で生活する混血の人びとが置かれた社会文化的な不確実さを示唆しているとの結論を得た。この用語のもと、彼らは日本人のアイデンティティに包摂されたりそこから排除されたりするのである。

調査2年目には、民族的・文化的にほぼ均質とみなされている日本において、アイヌは、その社会文化的相違にも関わらず、どのようにして日本人のアイデンティティの中に編入されたのか、さらにアイヌは日本の先住民族としてどのような権利要求を行っているのかについて考察した。その際注目したのが、国家的アイデンティティ形成の土台をなす「日本性 japonité」である。「ハーフ」の考察から明らかになったように、「日本性」とは、状況次第でそこに包摂されたり排除されたりするさまざまな社会文化的アイデンティティをもとに構成された複合的な基盤なのである。さらに、アイデンティティの問題が持つ今日性を考えるうえで、1934年にアイ

ヌの地位向上を目指して書かれた貫塩喜蔵の著作『アイヌの同化と先蹤』（1934）が持つ重要性が浮かび上がった。

調査の最終年にあたる3年目には、貫塩の著作を、当時の時代状況を踏まえて精読することで、北海道のアイヌのアイデンティティと社会文化的変容についての研究を進めた。貫塩は1930年代に既に、現代的な先住民の権利要求や社会的問題の指摘を行っている。彼の認識と先見性は驚異的であり、それが彼の著作を重要なものとしている。『アイヌの同化と先蹤』の全文はフランス語に翻訳され、注釈と民族歴史的な補足を加えたうえで、ケベック大学モントリオール校（UQAM）の出版局からコレクション「霜の降りた庭（Jardin de givre）」の一部として出版されることが決定している。このコレクションは、周極に暮らす先住民たちの思想と想像の所産を広く紹介することを目的としているが、これは本研究の目的とも合致する。カナダを含むフランス語圏の人々に『アイヌの同化と先蹤』を紹介することによって、比較人類学研究的の道が開かれるであろう。実際、周極の先住民たちが植民地化の過程において示したさまざまな反応と、社会正義と環境保全を目指して行う彼らの権利要求について調査をすることは、今後の研究課題となるであろう。

### 3. 研究の方法

本研究は、現代アイヌの思想の特殊性とその歴史的変遷を辿るため、フィールド調査と歴史的文献の分析を総合する形で進められた。アイヌの思想に関しては、それが色濃く反映された「アシリチェブノミ」—サケの遡上を祝う儀礼—を文化の保護とアイデンティティの再構築を目指した集団的動員の一例として取り上げた。実際この儀礼は先住民族の保護を目指したグローバルな闘争の一例であり、そこには地元や他地域、国内、国外から多くの人々が参加する。この儀礼を通じて、アイヌの共同体が日本の植民地支配の影響、特に社会文化的損害に対してどのように抵抗しているのかを垣間見ることができた。

また、北海道における先住性の防衛のために行われるこの集団行事の起源を理解し、アイヌが練磨した抵抗と適応の戦略を研究するために、貫塩喜蔵という名のアイヌの活動家の仕事を分析した。彼が1934年に出版した『アイヌの同化と先蹤』は、アイヌの擁護と同時に、日本国家を構成するより大きな共同体へのアイヌの編入を目指して書かれた極めて独創的な宣言書である。穏やかで均衡のとれた混血の在り方を模索するアイヌたちのために書かれたこの偉大な書物のおかげで、アイヌの歴史とともに、植民地化に対してアイヌが示した様々な種類の反応を知ることができた。

さらにこの書物を通じて、植民地化に対してアイヌが示した反応を、アイヌを含むより大きな先住民コミュニティとの関連で考察することの重要性が明らかとなった。そこでまず、フランス文学・先住民文学の専門家である櫻井典夫にこの重要な書物のフランス語訳を勧め、UQAM出版局からの出版へときぎつけた。『アイヌの同化と先蹤』のフランス語訳を介したUQAMとの連携を通じて本民族歴史的研究を目指すのは、文化的生存のために日本のアイヌが行う闘争の特殊性が、極北に暮らす先住民族というより大きな枠組みの中でどのように位置づけられるのかを分析することである。実際これらの先住民族は、お互いの相違にも関わらず、植民地の過程に直面したこと、また彼らを結びつける文化的・地理的特殊性などによって、共通の歴史と課題を持つと考えられるのである。

#### 4. 研究成果

文部科学省の援助もあって、3年に渡る研究を通じて、アイヌのアイデンティティと社会文化的変容に関して、主に4つの成果が得られた。

1) サケの遡上を祝う儀礼「アシリチェプノミ」の開催に代表されるアイデンティティの再構築に向けた戦術を分析することで、かつて追放された公共空間をアイヌがどのように再領有したのかを示すことができた。アイヌ・和人を問わず、多くの知識人や主要人物が参加するこの儀礼は、サケの遡上という年中行事を祝うことで、アイヌ文化の生命力や環境に対する深い配慮を広く知らしめることにも貢献している。本儀礼に関する研究の成果は、「持続可能な社会に向けた自然との共生の知恵〈北方圏の交流〉」をテーマとする第20回千歳科学国際フォーラム(CIF20)における基調講演として発表された。また、東京の日仏会館で行われた第35回渋沢・クローデル賞の授賞式に際しては、「今日のアイヌ：先住民族のアイデンティティと社会文化の再構築」という題目で受賞記念講演を行った。さらに、先住民族の工芸品の発展と、工芸品が民族のアイデンティティの支えとして果たす役割についての研究論文を発表した。(«L'évolution de l'artisanat ainou en art primitif moderne : transferts et appropriations culturelles» (1<sup>e</sup> et 2<sup>e</sup> parties), *Media and Communication Studies*, n°72, Research Faculty of Media and Communication, Hokkaido University, ISSN 1882-5303, p. 1-25 et p. 25-46.)

2) アイヌの機関紙『アヌタリ・アイヌ』を一読して明らかなように、アイヌは「滅びゆく民族」というレッテルに抗うため、同様の抑圧を受けていたアメリカのマイノリティたちの動向について早い時期から研究を行い、アイデンティティ再定式化のための戦略を練り上げていた。北米のインディアンたちの抵抗運動やアメリカ黒人の公民権運動は、アイヌ民族が先住民族としての権利要求を行うための重要な指針となった。また、アメリカインディアンの影響のもと、アイヌは孤立状態を抜け出し、極東ロシアから北アメリカに広がる巨大なコミュニティへと接近したことが明らかになった。この研究結果は以下の論文にまとめられている。「L'influence amérindienne dans la réappropriation historique des Aïnous et la construction d'une ethnopolitique autochtone hokkaidoise au Japon», *Septentrional* n°5, Société japonaise de langue et littérature françaises, Hokkaidô, p. 61-82.

3) ここまで得られた研究結果はさらに、日本における多民族性の概念に関する新しいテーマへと道を開き、その成果は *Communications* というフランスの国際的雑誌に発表された(«L'identité fantasmée : altérités, métissages et races au Japon», *Revue Communications*, n° 107 «Races et racismes» sous la direction d'André Burguière, Laboratoire d'anthropologie critique interdisciplinaire (LACI), Le Seuil, Paris, p. 205-218.)。この論文は日本語へも翻訳され、その解説とともに発表されている(リュリシアン＝ロラン・クレルク「幻想されたアイデンティティ：日本における他性、混血および人種」、櫻井典夫「分子の1を問い直す―「幻想されたアイデンティティ：日本における他性、混血および人種」解説」、*國學院大學北海道短期大学部紀要* 第39巻、2022年3月、p. 129-141. 及び p. 143-157.)。「幻想されたアイデンティティ」では主に、「ハーフ」と呼ばれる人々が状況次第で日本人のアイデンティティに包摂されたり排除されたりするメカニズムについての分析を行い、「日本性

（日本らしさ）」の基盤について再考を促すことが目指された。同時に、「半分の」という否定的な意味あいを含んだ「ハーフ」という言葉の分析により、帝国主義的対立という歴史的な文脈のなか、健全な国家を保障するとみなされた「人種的純粋さ」や「国家的人種差別」と結びついた日本とアメリカの双方にまたがる問題の数々を浮かび上がらせた。そのうえで、今日の人類学的知見を交えながら、日本の見かけの上での均質性は、民族・文化的に相対化される必要があることとともに、多種多様な社会文化的アイデンティティの総和こそが「日本性」の基盤なのではないかという見解を示した。

4) アイヌ文化の擁護と顕揚を目指した活動の起源について考察するために、アイヌが抵抗と適応のために用いる戦略の偉大なる開発者の一人である貫塩喜蔵に注目し、その著作『アイヌの同化と先蹤』の精読を行った。この書物は、当時、日本国家を構成していた共同体へのアイヌの統合を促進する目的で書かれた宣言書であり、この中で貫塩は、日本社会におけるすべての民族的・文化的構成要素が尊重され、正しく評価される公平な社会文化的混交の必要性を熱心に唱えている。適者生存と人種的ヒエラルキーの論理に支配された当時の偏見を論駁しながら、アイヌの生活条件を改善するために、貫塩は自己修養に基づいた独創的な解決策を提案する。彼は、今日の社会的頹廢の原因である「人間」から、人類全体の理想像である「人」へと変ずることを推奨するのである。貫塩に代表されるアイヌの思想の複雑さと天才的な創造性を手掛かりとすることで、私たちは、未だあまり知られていない北半球に暮らす先住民族たちの多様性だけでなく、世界の豊饒さに対する彼らの貢献の大きさとその重要性とを理解できるだろう。アイヌ文化を北海道だけでなくさらに広大な北方圏の内部において考察するための第一歩として、貫塩喜蔵の『アイヌの同化と先蹤』と、土橋芳美の『痛みのペンリウク—囚われのアイヌ人骨』のフランス語訳の出版が予定されている。*Vestiges et assimilation des Aïnous de Nukishio Kizô*, Introduction, adaptation, notes, chronologie et commentaires. Traduction de Sakurai Norio. Presses Universitaires du Québec, Collection Jardin de givre dirigée par Daniel Chartier, Université du Québec à Montréal ; *Penriuk et sa douleur – Ossements aïnous retenus prisonniers de Dobashi Yoshimi*, Chronologie historique, politique et littéraire du peuple aïnou, notes sur les transcriptions du japonais et de l'aïnou, et bibliographie sélective. Traduction d'Etienne Lejoux-Jobin. Presses Universitaires du Québec, Collection Jardin de givre dirigée par Daniel Chartier, Université du Québec à Montréal.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Clercq Lucien ; Sakurai Norio     | 4. 巻<br>39 (13)       |
| 2. 論文標題<br>「幻想されたアイデンティティ：日本における他性、混血および人種」 | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>國學院大學北海道短期大学部紀要                   | 6. 最初と最後の頁<br>129-141 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし               | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）       | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Clercq Lucien ; Sakurai Norio                   | 4. 巻<br>39 (13)       |
| 2. 論文標題<br>「分子の1を問い直す 「幻想されたアイデンティティ：日本における他性、混血および人種」解説」 | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>國學院大學北海道短期大学部紀要                                 | 6. 最初と最後の頁<br>143-157 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                             | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）                     | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Clercq Lucien  | 4. 巻<br>107           |
| 2. 論文標題<br>Fantasized Identity: Multiculturalism, Multiracialism, and Otherness in Japan | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>Communications   | 6. 最初と最後の頁<br>205-218 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-             |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Clercq Lucien   | 4. 巻<br>5           |
| 2. 論文標題<br>Amerindian influence in the historical reappropriation of the Ainu and the construction of an indigenous Hokkaido ethnopolitics in Japan | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>Septentrional   | 6. 最初と最後の頁<br>61-82 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし   | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）   | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Clercq Lucien   | 4. 巻<br>5           |
| 2. 論文標題<br>L'influence amerindienne dans la reappropriation historique des Aïnous et la construction d'une ethnopolitique autochtone hokkaidoise au Japon | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>Septentrional   | 6. 最初と最後の頁<br>61-83 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Clercq Lucien   | 4. 巻<br>107         |
| 2. 論文標題<br>Fantasized Identity : Multiculturalism, Multiracialism, and Otherness in Japan | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>Communications  | 6. 最初と最後の頁<br>21-40 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>Clercq Lucien  | 4. 巻<br>72          |
| 2. 論文標題<br>Arts and Sociocultural Appropriations: The Evolution of Ainu Crafts in Modern Primitive Art. Part I | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>Media & Communication Studies  | 6. 最初と最後の頁<br>01-25 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Clercq Lucien   | 4. 巻<br>72          |
| 2. 論文標題<br>"Arts and Sociocultural Appropriations: The Evolution of Ainu Crafts in Modern Primitive Art. Part II" | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>Media & Communication Studies   | 6. 最初と最後の頁<br>25-46 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-           |

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Clercq Lucien                                      |
| 2. 発表標題<br>アイヌ民族による土着的アイデンティティの再構築：北海道のアシリチェノミ 新しい鮭を迎える儀式 を例に |
| 3. 学会等名<br>20th Chitose International Forum (招待講演) (国際学会)     |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Clercq Lucien                 |
| 2. 発表標題<br>今日のアイヌ：先住民族のアイデンティティと社会文化の再構築 |
| 3. 学会等名<br>日仏会館、日仏会館・フランス国立日本研究所 (国際学会)  |
| 4. 発表年<br>2019年                          |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

|  |
|--|
| Research map : Clercq Lucien<br><a href="https://researchmap.jp/ethnohistory/">https://researchmap.jp/ethnohistory/</a><br>Research map : Clercq Lucien<br><a href="https://researchmap.jp/ethnohistory/">https://researchmap.jp/ethnohistory/</a> |
|--|

|                           |                       |    |
|---------------------------|-----------------------|----|
| 6. 研究組織                   |                       |    |
| 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|